

算命中庸

【初年】 3 2 回目

3 2 回目の授業はこのページからです。

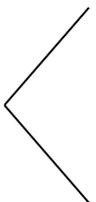
授業科目 【十大主星特性④】

【初年】 3 2 回目 【十大主星特性④】 01

🔗 車騎星・牽牛星

しゃきせい けんぎゅうせい
車騎星・牽牛星は攻撃本能の星です。

攻撃本能にも、陽の攻撃の星・陰の攻撃の星があります。

攻撃本能 
+ 車騎星
- 牽牛星

⇒ 攻撃本能を“攻撃する本能”として、思考をめぐらすと、わかりにくくなってしまふことが多いのです。

そこで、攻撃本能を“行動の本能”というふうに、言葉を置き換えるとよいでしょう。

算命学では攻撃本能を“行動の本能”でもある。このように考えています。 参考・行動 [あることを行うこと]

“行動”ということ考えてみると、なにかをするときに〔陽の行動〕と〔陰の行動〕があります。

それは〔主体性のある行動〕と〔主体性のない行動〕です。

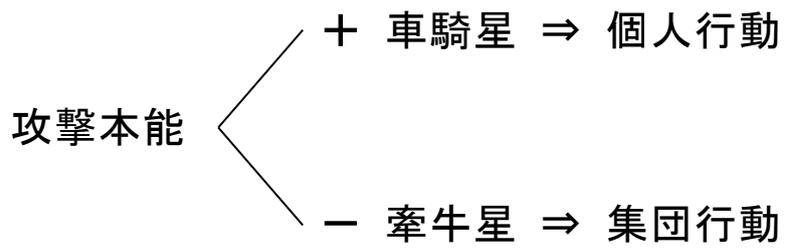
陰と陽では、主体性のあるほうが（陽）になりますから、

〔たとえば〕個人行動と集団行動では、どちらのほうが自分の主体性が発揮できるのかといえは個人行動です。

1人で行動しているときには、自分の好きに動けますから、主体性が十分出せるはずです。

集団で行動しているときに、自分勝手なことはできませんから、主体性をだせないはずです。

そうしますと、車騎星と牽牛星の違いは ➡



〔車騎星は個人行動の星〕

〔牽牛星は集団行動の星〕 と考えてください。

☞ 車騎星から話を進めます。

☆ 車騎星

車騎星 ⇒ 攻撃（陽）

車騎星は個人行動の星です。

個人行動

行動の星（陽）ですから、1人で行動したほうが、自分の主体性が発揮できます。

自分の主体性を発揮 ⇒ 自分の意志で行動する

人に言われてやるのではなくて、仕事でも、趣味でも、遊びでも、自分の意志で行動しようとする星です。

何事も自分の意志でうごきたい、そういう本能を備えている星です。

集団行動を出来ないわけではありませんが、自分の意志で行動できないことが多くなります。それは苦手です。

個人行動が得意です。

個人行動が得意

攻撃の陽星／行動の陽星ですから“前進力”があります。

一言でいえば ⇒ 行動力

車騎星は『行動力の星』ともいわれます。

＊ 田中 真紀子 1944(S19)-1-14

彼女の場合、十大主星は初元の蔵干が人体図にでます

	丁	乙	癸		車騎星	天南星		8 丙寅
申	丑	丑	未		車騎星	車騎星	貫索星	18 丁卯
酉	癸	癸	丁		天庫星	龍高星	天庫星	28 戊辰
	辛	辛	乙					38 己巳
	己	己	己					48 庚午
								58 辛未
								68 壬申
								78 癸酉

田中真紀子さんのように、主星の場所に車騎星がある人、あるいは、車騎星が複数ある人は、思い立ったら、すぐにでも行動に移したい。という質をもっています。

やりたいと思ったら、そのとき、すぐ行動に移さないとイヤだと……そのような性格の人になります。

思い立ったら、すぐに行動に移そうとする



じっとしているのは^{にがて}苦手

思い立って、パッと行動に移せるということは、決断力があるからともいえます。

決断力 ⇒ 行動

決断力がなければ、これをやろうかな——と思っても、「でも……止めようかな……どうしようかな」と、即決できずに行動に移せないわけです。

車騎星は、これをする、しない、パッと決められます。

すぐに行動に移せるのは決断力があるからです。

これはやる、これはやらない、きちっと、さっと決める質を有します。

決断力があることは“好き嫌い”もハッキリしているといえます。

好き嫌いがハッキリしている

あの人好き、この人は嫌い、というように、対人関係もそうですし、物事に対しても、白黒をハッキリとつける人といえます。

⇒ ここまでは“行動”という意味でご説明しましたが、つぎに“攻撃”ということで考えてみます。

車騎星は攻撃本能の陽星ようせいです。

【初年】12 回目～14 回目——【本能論】のところでもやりましたけど、“相手を攻撃しない”という人物はいません。

生れてから死ぬまで、相手に文句をいったこともないし、喧嘩したこともない、そういう人はいないはずですよ。

“相手を攻撃する”というのは、なぜでしょう……？

自分が負けたくないからです。

相手に勝ちたいからです。

相手のほうが間違っていると思えば、相手を批判したり、攻撃したりしますが、特にそれが自分の気に入らない相手だとすれば、その攻撃はより激しいものになったりもします。つまり、人間は本能的に相手に負けたくないという意識を内在しています。それゆえに、“人と争う”

ことにもつながるわけです。それは攻撃本能がなす業^{わざ}です。

車騎星は攻撃の陽星^{ようせい}ですから“他人^{ひと}に負けたくない”という性質が特に強い星です。

負けず嫌い

車騎星の大きな特徴です。

行動力があるのも、前進力があるのも、負けず嫌いだからです。他人^{ひと}に後れ^{おく}を取りたくないわけです。

この資質は何事に対してもいえるのです。

これが自分の目標だ……そのように想う事柄があれば、そのことに関しては、特に負けたくないわけです。

自分の意志で行動しようとするのも、負けず嫌いだからです。人のいいなりに動きたくないからです。

それゆえに、必然的に自分の意志で行動するようになります。

行動力があるのは、負けず嫌いだからです。

田中真紀子さんは、主星（真ん中の星）が車騎星です。
人体図には十大主星が五つ、十二大従星が3つ出ます。
彼女の人体図に攻撃本能の車騎星が三つもあります。
残りの〔龍高星〕〔貫索星〕も濁星だくせいですから、どうしても
攻撃的な言動の人になって行くわけです。
このような人は、負けず嫌いで、気が強くて、怒らせると
乱暴になる。といえるわけです。

⇒ 車騎星の人物が、気弱きよわになるとすれば……どういうときでしょう？

それは病気になったときです。

車騎星は行動の星ですから、行動力が出せなくなると、
自分の武器を出せないのとおなじことです。

病気で体が弱って、行動できない、うごけない、発揮できない状況になると、車騎星は特に気が弱くなります。

普通は気が強い星ですけど、病気になると気弱になるので、車騎星にいうことを聞かせようと思ったら、病気のときを狙ねらうのが一番よろしいですね。

⇒ 「人体図に車騎星がいくつもあります」といっても、その車騎星が「立派な車騎星なのか」「ダメな車騎星なのか」という分かれ目があるのです。

車騎星は攻撃本能の陽星ようせいですから“誰かと戦う”という星です。

攻撃する ⇒ 誰かと戦う／相手と競い合う

算命学は、「宿命どおりに生きなさい」という言い方をしますが、車騎星が宿命通りに生きようとするのであれば、攻撃本能をきちんと発揮することです。

誰かと戦う、競い合うと、攻撃本能が鍛えられます。

星を鍛えるには、小さい頃／子供の頃から、人と競い合うことを経験させると良いのです。

車騎星の特性は行動力ですから、どの分野に進んでも、人一倍頑張って、人一倍働き者であれば伸びて行きます。

“伸びる”という意味合いは、運勢的にも伸びるという意味、人間的にも伸びるという意味も含まれています。

一般的にスポーツ選手は、さわやかな人が多いです。

格闘技の選手だからといって、他人にケンカを売ったりしている人が多いわけではないですよ。

むしろ少ないでしょう。

車騎星がスポーツの世界で、攻撃本能を消化していれば、人間的にも人格の高い人になって行きます。

つまり、攻撃をしてよいときには攻撃する、攻撃をすべきではないときは攻撃しない、というように、攻撃本能をすばやくコントロールできるような人になります。

車騎星が主星とか、人体図に車騎星がいくつもあるのに、人と競い合うようなことを、子供の頃から経験していないと、攻撃本能を活かしていないことになります。

攻撃本能を発揮する経験を積んでいないと、どうでもいいことに、攻撃を仕掛ける人になってしまいます。

攻撃本能をつかっていないからといって、攻撃本能自体が無くなるわけではありません。

攻撃本能の星があるのにつかわないと、攻撃本能が未消化になります。未消化ですから問題を起こします。

まったく攻撃本能を活かしていないと……何かという人と人に文句をつける、人の悪口ばかりをいうとか、そのような人間になってしまいます。

子供の頃から、人と競い合うことを経験させることで、この星は人間的にも成長します。

攻撃本能を消化していれば、攻撃本能が満たされますから、攻撃する必要のないときに、他人を攻撃するような人物にはならないのです。

〔たとえば〕食べた食物がきちんと消化されていれば嘔吐して、他人に不快な思いをさせることはないです。たとえ、妻や夫でも、嘔吐の後始末をするのは気持ちの良いものではないはずです。

⇒ 車騎星が主星の子が生まれたとか、車騎星がいくつもあるような子が生まれたら、なるべく子供頃から、運動でも勉強でも、音楽とか、絵とか、何でもよろしいです。何か目標を与えて……絶対にあの子には負けたくないとか、クラスで一番になるために頑張るとか……そのようなことで、人と競い合うとか、戦い合うとか、そういう事柄を経験させると、車騎星が消化されます。

性格的にも、しっかりした人物になって行くし、運勢的にも伸びて行きます。

せっかく攻撃本能をもっているのに、攻撃本能を発揮しないで育ってしまうと、宿命から外れます。

車騎星は輝きを失い、星が生きてこなくなります。

☞ 女の子はどうでしょう。

車騎星がいくつもある女の子が生まれたとします。

女の子だからといって、おしとやかに、箱入り娘で育ててしまうと、ダメな車騎星になっていきます。

つまり、車騎星の気の強さが、ただの我が儘わ ままになってしまうのです。

小さい頃から、なんでもよいのです。

何かで競わせるといった経験をして行くなかで、星が鍛えられて、人間的にも立派な人物に育っていきます。

車騎星の攻撃本能を鍛えるのです。

〔立派な車騎星になるのか〕〔ダメな車騎星になるのか〕

その分かれ目です。

〔たとえば〕 かりに——下記の人体図の女の子が生まれましたとします。

この女の子は 2014 年で〔4 歳〕になりました。

	車騎星	天南星
車騎星	石門星	車騎星
天庫星	鳳閣星	天将星

車騎星が 3 星あって、最身強（さいみきょう）です。

最身強については ⇒ 「^{みきょう}身強・^{みちゆう}身中・^{みじゃく}身弱」でまなびます。

もしも、この女の子を甘やかして育てると……育たないのです。

“育たない” という意味は、普通の社会人になれないということです。

^{じっ}実のご両親に、できるのか、できないのか、わかりませんが、生まれて、まだ物心が付かないうちに、普通の子の 2 倍も、3 倍も厳しく育てることが要求されます。

ご両親にとっては、非常に難しいことであり、過酷ですが、それによって、この女の子の人生が決まるといっても過言ではないのです。

それはどういうことなのか……算命学の勉強でご理解できます。

しかし、頭で理解できたとしても、いざ、我が子となると、厳しく育てることは、とてもとても難しいのです。

親子とも涙ぐましい努力が必要ですけど——それができた ^{あかつき} 暁 には、大きな桃がふっくらと結実した如くに、実に見事に育っていきます。参考・暁 [ある事柄が実現したそのとき]

⇒ 車騎星の質からして、職業、仕事ということでは：

行動力を必要とする仕事

に向きます。

あるいは、何かと戦う、競い合う、そういうことを必要とする世界に向きます。

人と競い合う仕事

サラリーマンでも、ライバルの会社と何かを競い合わなくてはいけない。そのような状況に置かれると車騎星の人は強いです。

あるいは、それが特定の ^{たいしょう} 対象でなくてもよいのです。

〔たとえば〕子供なら、クラスで一番になるとか、そういう目標を^{こころざ}志してもよいのです。

大人であれば、ここまでは出世したい、この課で一番になるとか、なにか目標を設定して戦っていくのが車騎星です。そういう生き方には向いていますし、そのほうが伸びていきます。

“なにかと戦う”ということでは、スポーツ界などは“競い合う”その典型です。

スポーツ選手は、必ず、対戦相手と戦います。そして、相手に勝たなければ、成功しない世界です。

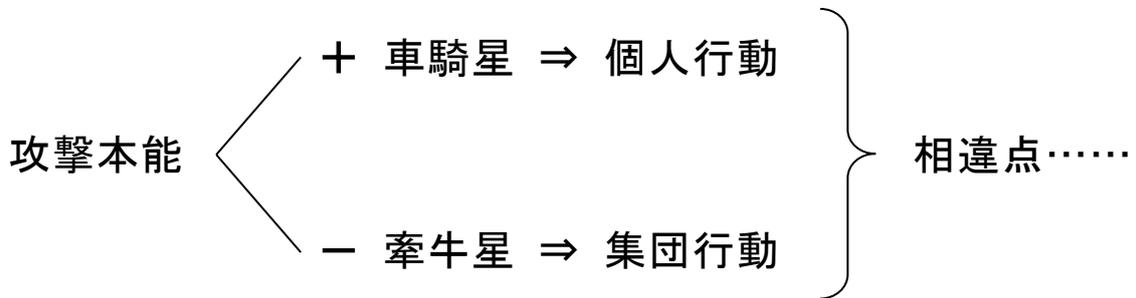
昔から車騎星を『軍人の星』ともいいますが、軍人にも向いています。

☞ 女性で車騎星をもつならば……。

攻撃の陽星なので男性的な星ですが、女性で車騎星をもつならば、男性的な仕事にも向いています。

男が従事するような仕事とか、男社会のなかに出て行くとか、スポーツ界にも向いています。

⇒ 「車騎星」と「牽牛星」を順番に考えます。



車騎星は個人行動、牽牛星は集団行動の星という違いがあっても、どちらも行動の星です。

普通に考えていただきたいのですが：

人間がおこなう生涯の行動のなかで、おそらく最もたくさんやる行動はなにかといえば——それは仕事でしょう。

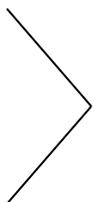
「たとえば」「女性で——仕事はしていません。私は専業主婦です」といっても、主婦としての仕事はたくさんあります。それも仕事です。

仕事よりも、カラオケで歌っているほうが長いとか——たまにいるかも知れませんが、普通は仕事のほうが多いはずですよ。

フルに一日 8 時間働いて、8 時間以上も別な事をやっているとか、それはまずないでしょう。

人間が意志的に身体をうごかして、ある事をおこなうとか、はたらきかけたりするなかで、一番主たる行動は、仕事であるはずです。

車騎星
牽牛星



『仕事の星』といわれています。

仕事運を占うときには〔車騎星〕〔牽牛星〕をつかって、観ていくようになります。

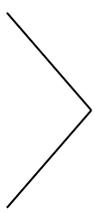
「仕事をはじめたいのですが、どうでしょうか？」と、訊かれたら、その人物の人体図にある〔車騎・牽牛〕のところに焦点を当てて、「今年ならいい年ですよ」とか、「今年は仕事をはじめるとは良くないですよ」とか——たとえば、そういうふうに観ていくようにもなります。

☞ そしてさらに……つぎのような考え方をしています。
一人の人物が仕事をもつと、それが本人の意思などに関わらず、その人物の仕事が、その人の“社会的地位“をあらわすようになります。

〔たとえば〕「どんなお仕事していますか」と訊かれて、「私は何々会社で課長をやっています」と、応えれば、その『何々会社で課長をやっています』ということが、社会的地位を意味し、それは名誉に相当します。

「私は〇〇学校で校長をやっています」といえば——、その人の社会的地位であり名誉です。
本人の意思に関係なく、どういう仕事をしているかということが、イコールその人の名誉とか地位になります。

車騎星
牽牛星



『仕事の星』 = 『名誉の星』

それゆえに〔車騎星・牽牛星〕は、仕事の星・名誉の星といわれています。

その人物にとっては、仕事＝名誉となりやすく、仕事は人間の行動の代表的なものです。

〔禄存星・司禄星〕は『財の星』といわれています。

〔車騎星・牽牛星〕は『仕事の星・名誉の星』といわれています。

算命学で『財運』と『名誉運』これらは異なる運です。

〔たとえば〕「会社で出世できるかどうか？」訊かれたときは、それは財運ではなくて、名誉運で占います。

会社で出世ということは、地位が高くなるかどうかです。

つまり、名誉が高くなるかどうかを意味しています。

それは名誉運で占います。 財運ではないのです。

場合によっては……「今年の名誉運はすごくいいのに、財運は悪いです」そういうふうに出ることもあります。

出世したけど、財産で損をする——そういうこともあり得るわけです。

反対に「出世はしないでしょうけど、財運は上昇です」

ということもあり得ます。財運と名誉運はおなじもので

はないのです。^{がち}合致するものではありません。

☞ 車騎星を人物でいいますと：

〔偏夫 へんぷ〕 の星といわれます。

偏夫は〔夫以外の男性〕を意味します。

人体図に〔車騎星〕がいくつもある女性は——男性の星がいくつもあることになります。

ゆえに、人生一生を通して男性との縁えんが多くなります。その意味では、男性関係が多くなる可能性は出てきますし、そういう傾向があります。

だからといって“必ずそうなる”とはいえません。

なぜなら……車騎星は仕事の星という意味がありますから、仕事上で男性との付き合いかも知れないし、ただの友達かも知れないわけです。

これは……宿命を深く観ていかないとわからないのです。

そうはいっても……男性と縁があるという意味をもっていますから、車騎星がいくつもある女性は、男性関係が多くなる可能性はあります。

よくいえば、モテる女性です。男の人にモテる〔縁がある〕ということでは、男が寄って来るわけです。寄ってきて——それを受け入れるのかどうかは本人次第です。

原則として——〔車騎星〕というのは、女性にとっての
〔彼氏〕という存在をあらわします。

女性にとっての彼氏

⇒ 車騎星の思考法：

思考法 ⇒ 行動思考〔行動しながら考える〕

行動思考とも呼ばれていますが、うごきながら考える星
です。

何かを考えるときにも、実際に実行に移してからのほう
が、良い知恵が浮かんで来るのです。

そういうタイプの人ですから、やるとか、やらないとか
をじっくり考えているよりも——すみやかに物事を実際
に行う、実行に移してうごく、そのほうが良い知恵が浮
かびます。

あれこれ考えていても……実りある知恵も浮かばないし、
考えもまとまらないのです。

これは車騎星の人の特性です。

〔たとえば〕車騎星が主星だとか、車騎星がいくつもあるとか——そういうお子さんに勉強をさせようと思うのであれば、「文武二道」というように、運動もさせたほうが知恵も伸びていきます。

勉強だけをやらせても、あまり伸びないのです。

毎日机に座って、ただ勉強しているだけでは、星が輝かなくなります。

せっかく行動力をもっているのですから、そのチカラもつかったほうが知恵も伸びます。

ここでは、攻撃本能〔車騎星〕の基本についての学びでした。

👉 つぎは、攻撃本能の陰星〔牽牛星〕です。

☆ 牽牛星

牽牛星 ⇒ 攻撃（陰）

牽牛星は攻撃本能の陰星です。

陰の行動は、自分の主体性はあまり出さない行動なので
集団行動の星です。

集団行動

牽牛星は集団行動を得意とする星、集団行動が得意な人
です。

集団行動が得意ということは、どのような性格の人でしょう？

集団行動するためには、どういう性格が必要でしょう？

集団においては、自分勝手な行動をしてしまうと、全体の
規律が乱れてしまいます。それゆえに、まわりに気遣
いしないといけません。

自分勝手な行動をしない——その集団の規則があるとなら
ば、それらの約束事をきちんと守れる人でなければ、
集団行動はできないはずで。

そうしますと、牽牛星は規則・約束を守る人です。

規則や約束を守る

組織に決まり事があれば、きちんと守ろうとします。

規則を乱そうとする人を嫌うようになります。

あるいは、集団行動ではなくても、他人と約束した物事をきちんと守ろうとします。

〔たとえば〕「どこの場所で、何時に待ち合わせた」と、いうことであれば、その時間を守らなければ、それだけで集団行動は乱れてしまいますから、本人は約束を守ろうとする人物になります。

もちろん、よんどころない事情がある場合は、仕方がないのですが、規則や約束を性格的にきちんと守ろうとする人です。

集団行動が得意だということは、責任感が強い人です。自分に与えられた仕事とか役割の責任を果さなければ、その組織全体に迷惑がかかってしまいます。

規則とか約束を守り、与えられた役割をきちんと果そうとしますので、責任感が強い人にもなってくるわけです。

責任感が強い

一言でいえば、真面目な人です。



真面目

牽牛星は真面目な性格と考えておけば良いでしょう。

☞ 車騎星と比較しますと：

車騎星は攻撃本能の陽星、個人行動の星で『武官の星』といわれています。

牽牛星は真面目な星で『文官の星』といわれています。

車騎星 ⇒ 軍人の星

牽牛星 ⇒ 役人の星

職業でいえば、牽牛星は役人に向いている星です。

地方の役人でも、省庁の官僚でもよいのです。

規則や約束をきちんと守れて、責任感が強い人物ほど、本来は役人に向いているはずです。

日本における最近の役人は、そうではない人物が増えて
いるように想えます。

牽牛星の質をもつ性格の人が、役人になってくれば、
その役所の仕事はきちんとまわるはずですし、国民の頼
りになるはずです。本来は役人に向いています。

一般的に、^{かた}堅い仕事に向いている。と考えればよろしい
です。

〔たとえば〕サラリーマンであれば、銀行員とか、ある
いは会社のなかでは経理とかです。

どちらかといえば、堅い分野に向いています。

真面目でしっかり仕事をしてくれる質をもちますから、
それに向く部署ならよいですね。

実際には、牽牛星の人物が役人になるとは決まっていま
せんし、堅い仕事に就くとも決まっていませんけど——
基本的に真面目な性格なので、堅い仕事に向いています。
ということになります。

真面目にきちんと約束を守れる人でなければ、集団行動
はできません。

それゆえに、“真面目な人” ここが一番の基本です。

牽牛星については、このように考えるわけです。

☞ そうしますと、牽牛星の人は“柔らかい仕事”には、向かないのでしょうか……？ ということになります。極端に言えば、ヤクザには向かないのでしょうか？

牽牛星の人が、もしヤクザになったとしたら、どのようなヤクザになると思いますか——？

もし、牽牛星の人がヤクザになったら、恐い無法者になります。

なぜでしょう！！

牽牛星は真面目ですから、ヤクザになるとすれば、ヤクザらしいヤクザになろうとします。

集団の決め事、規則・約束を守ろうとする質がありますから、組の約束事とか、親分から命令されたことを、確実に実行しようとしています。

牽牛星の人がヤクザになると、親分が黒といえ——、本来は白であっても、黒になります。

その質が真面目だというのは、その人物が置かれた立場・

状況のなかにおいて“真面目さ”を出そうとするわけですから、ヤクザらしいヤクザになろうとするわけです。

☞ 2001 年 6 月 8 日に国立池田小学校へ乱入して児童 8 人を殺害した〔宅間守殺人犯〕は、大物ヤクザになれるチャンスがありました。このことは牽牛星の話ではないですよ。

✳ 宅間 守 1963(S38)-11-23

						大運 6 歳運
庚	癸	癸	調舒星	天報星		6 壬戌
戌	午	亥 卯	玉堂星	鳳閣星	司禄星	16 辛酉
亥			天恍星	調舒星	天胡星	26 庚申
己	甲					36 己未
丁	壬	乙				46 戊午

陰占の十干から、陽占人体図に十大主星が出ているわけですが、宅間の人体図には〔車騎星〕も〔牽牛星〕もないのです。

陰占の世界の話です。

陰占での観方があります。

☞ 話をもどします。

女性で牽牛星の人がホステスになると、その店にふさわしいホステスになろうとします。

お店のマネージャーに、こんなサービスをお客様にしないさいといわれたら、きちんとそれを果そうとようになります。真面目にお店の方針に従うわけです。

牽牛星は、役人とか、堅い仕事に向きます。このことは一般論では確かにそうなのですが、その人物が育った環境だとか、生い立ちとかによって異なりますけど——職場なら職場の環境にふさわしい人間になろうとする質をもっています。

そういう“真面目さ”と考えておいて頂きたいのです。

ヤクザになったら、ヤクザらしいヤクザになろうとする。

ホステスだったら、ホステスらしいホステスになろうとする

つまり、置かれた環境にふさわしい人間になろうとします。

〔たとえば〕その人物の生れた家が商売をやっていて、小さい頃から親の商売を手伝って、親からも将来は跡を

継いで欲しい、といわれているとすれば———商売人らしい商売人になろうとします。そういう星です。

☞ 十大主星というのは、この星は良い星だとか、この星は良くない星だとか、いい性格の星とか、悪い性格の星とか、そういう意味合いは一切ないのです。

それゆえに、牽牛星は真面目な星だから、悪い事をしないとか、そのように考えたら間違いだということです。

牽牛星の人がドロボーになるとすれば、腕のたつ泥棒になろうとするでしょう。

立派な泥棒になろうとします。

牽牛星の人が真面目だという意味は、本質の性格が真面目なので、真面目だといっているのもあって、牽牛星の人が^{まにんげん}真人間だという意味ではないのです。

本来の質は真面目ですから、まともな人物になる場合のほうが多いわけですが、育った環境によって異なります。これは仕方ないのです。

その環境に相応^{ふさわ}しい人間になろうとするわけですが……
会社、あるいは、組織とかに存在する体制に従おうとするわけです。(その人が置かれた体制です)

体制に従う

そのように考えておいてください。

それでヤクザのたとえを出したのです。

親分が黒といえ、白であっても黒なわけです。

それに従う真面目さがあるわけです。

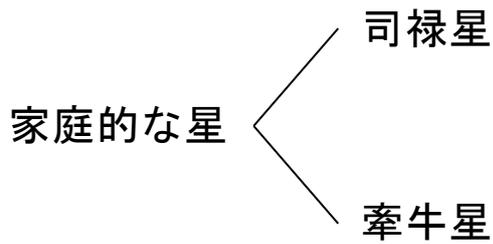
⇒ 集団行動が得意な星ですが、人間の人生で考えますと、自分にとっての一番身近な集団は家族ですから、家族で行動することが意だともいえるわけです。

最も身近な集団は家族



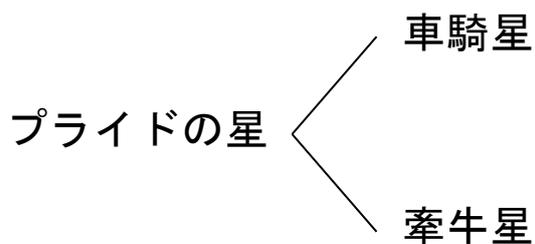
家庭的

それゆえに、牽牛星にも家庭的という特徴があります。
家庭的ということでは、司禄星も家庭的な星でした。



十大主星のなかで家庭的な星といいますと〔司禄星〕と〔牽牛星〕の二つをさします。

⇒ 車騎星と牽牛星には『名誉の星』という意義がありましたけど、性格的には『自尊心の星』という意義もあります。



車騎星も、牽牛星も、どちらもプライドの高い星です。

⇒ 魅力本能のところ、禄存星は親切で優しい星です。と学びましたけど、なぜ親切で優しいのかといえば——“相手から好かれない”という本能をもっているからで

す。禄存星（陽）の魅力本能がまわりに親切にさせるわけです。

それとおなじように、牽牛星は真面目で責任感も強い、規則を守るといふ星です。

なぜ真面目なのかといえは——“プライドが高い”という質があるからです。

じそんしん ほこ
自尊心・誇りが高いから、自分に与えられた責任を果さなければ、自分のプライドが許さないわけです。

裏を返せば——規則や約束を守らない人間、そんないい加減な人間だと思われたくないのです。

プライド〔自尊心・気ぐらい〕が高いので、真面目で責任感も強い人になる。という意味が根底にあります。

☞ 車騎星は（陽）、牽牛星（陰）、攻撃本能はおなじで、両者ともプライドが高い星です。

その車騎星は（陽）なので“直接行動”にでます。

〔たとえば〕負けず嫌いで、プライドが高くて、人に負けたくないという思いから、頑張ろうとする行動力の星だといいました。

だといいました。

牽牛星は（陰）の攻撃本能ですから、直接的な行動にでない質をもちます。プライドは高いのですが、そのようには見えにくいのです。

プライドの高さが表面には出にくい

牽牛星も車騎星のように、人に負けたくないと思っても、直接的行動には出さないのです。

しかし、^{ほこ}誇り高い性質を内在しています。

〔たとえば〕牽牛星の相手に負けたくない^{きぐらい}気位は、ほかの十大主星よりも高いのですが、耐え忍んで持ちこたえます。車騎星のように直情ではないのです。

しぶとい／ねばり強い



最終的に目的を達しようとする

そういう人になっていきます。

直接——自尊心の高さ、気位の高さを出さないのですが、自分の誇り^{ほこ}を満足させるために、目的なり役割などを、何とかして達成しようとしています。

すぐに目的を達せなくてもいい、遠回りしても最終的に目的達せればいい。最終的に自分が勝ちたい。そのように本能を発揮するのです。

そういう“しぶとい”側面を備えた星でもあります。

☞ 人物は夫の星です。

人物 ⇒ 夫

夫の星と考えておいてください。

家庭的な星は〔司禄星〕と〔牽牛星〕の二つですけど、

〔司禄星〕人物で妻の星です。

〔牽牛星〕人物で夫の星です。

なぜ——〔妻〕と〔夫〕に意味が分かれるかといえは、これにも法則がありまして、それに当て嵌^はめてゆくと、こっちは妻の星で、こっちは夫の星になるという理論があります。いずれ学びます。そのときにご説明します。

司禄星は妻の星、牽牛が夫の星なので、どちらも結婚運を占うときには、この二つの星をつかって観ていくようになります。

宿命をみて、結婚運が悪い宿命とか、結婚運が良い宿命とかを判断するときに、司禄星と牽牛星をつかいます。

⇒ 牽牛星の人の思考法は、^{たいせいしこう}体制思考とよばれています。

思考法 ⇒ 体制思考

真面目な星で体制に従う星なので、常識的な考え方をする人です。

多数決には逆らわない

集団行動の星であり、体制に従う星です。

本質的にそういう性質を備えている星なので、牽牛星の人物〔特に主星が牽牛星〕に、いうことを聞かせようと思うのであれば、「みんなで決めました——」という言葉は、一番効果的でしょう。「みんなそういう意見ですから」といえば、たとえ不満であっても“仕方ない”とおもうのです。そのような考え方をする星です。

あるいは、自身の損得だとかよりも、集団全体を考えて物事を決める質があります。

集団全体を考えて物事を決める ⇒ 体制を重んじる
ともいえます。

体制を重んじるということは、少数派を重んじないということにもなります。

大を生かし、小を殺すという考え方

多数決には逆らわないタイプです。

このような思考回路をもっていると考えています。

“真面目な星”と、^{たびたび}度々いっていますけど——、
〔体制のほうを重視する〕 〔反体制を重視しない〕
〔大を生かして小を犠牲にする〕という考え方を備えています。

時には目的のためには、手段を選ばずという質を出す

大きい目的のためには、小さい事を犠牲にしても仕方がない……そういう考え方が出るのです。

それが牽牛星の質でもあります。

そのことが、良いか、悪いか、それは別のことです。

「目的の為には手段を選ばない」という質を出すことがあります。

ここでは、攻撃本能〔牽牛星〕の基本についての学びでした。

【初年】 3 2 回目【十大主星特性④】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 3 3 回目【十大主星特性⑤】 習得本能の星